

富山県射水市放生津潟における底生有孔虫を用いた津波堆積物の検出 Detection of tsunami deposits: utilizing benthic foraminifera of the former Hojozu Lagoon, Imizu City, Toyama Prefecture

矢野 さおり^{1*}, 竹内 章¹
Saori Yano^{1*}, Akira Takeuchi¹

¹ 富山大学理学部
¹ Toyama Univ.

富山県射水市の沿岸域は、寄り回り波によって度重なる被害を受けており、江戸時代以降には津波の襲来を受けている。本研究は、放生津潟の沖積層を対象とし、底生有孔虫を用いて津波堆積物やストーム堆積物などの海成イベント堆積物を発見することを目的とした。本研究では、黒部川河口周辺海域から採取された海底堆積物を検鏡して、富山湾における底生有孔虫の分布状況を把握し、既往研究で報告されている底生有孔虫の深度分布や対応水塊との対比を試みた。一方、放生津潟のコアサンプルの検鏡から底生有孔虫を抽出し、有孔虫の深度分布・対応水塊との比較から、海成イベント堆積物の当否を判断した。

その結果、深海性の *Ammonia ketienziensis* をはじめとする富山湾の底生有孔虫は、津波堆積物を認定する上での判断材料として有効であることが明らかになった。

放生津潟のコアサンプルから、縄文中期（約 5,000 年前）以降弥生後期（約 1,900 年前）以前に形成されたと考えられる、津波・ストーム両方の形成過程が示唆される海成イベント堆積物、ならびに津波堆積物である可能性の高い堆積物を発見した。底生有孔虫をのぞく包有物からみた海成イベント堆積物の特徴は粗粒砂を含むことであり、津波堆積物の特徴は、多量の貝殻片や中粒砂～粗粒砂を含むことである。それらの堆積物粒子の円磨度や淘汰度はともに低い。また、堆積物の供給源は、前者が内部浅海帯以浅の堆積物、後者は外部浅海帯以浅の堆積物であることが推定される。

このような海成イベント堆積物を検出し記載したことは、津波堆積物とストーム堆積物を識別する研究の糸口となると期待される。

キーワード: 津波堆積物, ストーム堆積物, 放生津潟, 完新統
Keywords: tsunami deposits, storm deposits, hojozu lagoon, holocene